

## 令和5年度第5回運営推進会議 グループホーム暖らん

日時：令和6年1月29日（月曜） 14時00分～14時40分

出席者 地域委員、民生児童委員、出雲市高齢者福祉課、出雲市高齢者あんしん支援センター  
星隆会理事長、暖らん管理者

### 1. 利用状況（1月28日現在）

現入居者 9名（定員9名） 1名入院中

#### ① 年齢別

平均91.4歳

	男	女
80歳代	0	2
90歳代	1	6

#### ② 要介護度別

平均要介護度 2.7

	男	女
要介護1	0	1
要介護2	1	2
要介護3	0	4
要介護4	0	0
要介護5	0	1

利用待機者 6名

委員質問：待機者の申し込み年数の分布はどのようになっているか。

暖らん管理者：5年くらいの方から数ヶ月の方までがおられる。

### 2. 12月からの行事、活動

「暖らん便り」no.26を元に説明した

### 3. 事故報告

転倒により骨折し入院することとなった事故について

#### □ 経過

令和5年12月31日夕食後、食堂において、当該利用者がトイレに行こうと椅子から立ち上がり、トイレへ向かう途中、バランスを崩して左を下にして転倒した。救急外来を受診し、左大腿骨頸部骨折と診断され入院した。今月初めに手術が行われ、現在リハビリを行なっている。

#### □ 事故の原因

トイレに向かって歩き始めていたが、職員がキッチンから「向こうは使われているので、後ろのトイレがあいてます」と言うのを聞き、その方向に向きを変えようとしたところ、バランスを崩し転倒した。職員は遠くからの声かけだけでなく、近くで移動につきそふべきであった。

#### □ 家族への連絡・対応

事故発生後、家族（次男）に電話連絡し、職員と一緒に医師から説明をうけた。事故発生時の状況と治療方針について了解しておられる。

#### □ 現在の状態と今後

1月19日、リハビリを目的として専門の病院に転院した。家族はリハビリ後、暖らんの利用を希望

しておられ、リハビリ後、戻っていただく予定である。

#### □ 再発防止の取り組み

- ・夕食後、少なくとも職員一人はテーブルと一緒に座るか、すぐ近くにいるようにする。食器洗いなどの業務は、利用者が全員居室に戻った後に行う。
- ・利用者が立ち上がりや移動を行う場合は、職員は必ずその近くにおいて、安全が確保できるような見守り、声掛け、介助を行う。

委員質問：その利用者は普段は歩行はどのような状態だったのか。

回答：普段は独歩で移動しておられ、職員は遠くからの見守りでも良いと認識していた。油断があったと反省している。上記のとおり、近くで声掛けと介助がされるべきだった。

質問：事故が起きた時、職員は何人だったか。

回答：2人でした。

質問：大晦日、正月で、職員の手数が少なくなる時期ということも遠因となったのではないか。

回答：遠因といえば、言えると思う。その時間帯の職員を増やすことの検討を行ったが、難しい状況です。

#### 4. 研修

12月15日（金）職員会 「感染症予防と感染時の対応方法」

1月26日（金）職員会 「様々なリスクへの対応方法」

#### 5. 見守りカメラの使用について（続）

夜間に不眠があり居室内で転倒の危険のあるご利用者の居室内にカメラを設置して、夜勤職員が室内の状況を見守ることについて、前回の運営推進会議において議論していただいた。その後、出雲市高齢者福祉課から次のように見解をいただきました。

「人は誰も自分の生活の様子を他者から見られるということはない。個人のプライバシー保護の観点からは、カメラによって利用者の様子を見ることには問題があるが、次の条件のもとで認められるものとする。

1. 利用者の安全の確保を目的とすること。
2. 本人、家族、また主治医が了解していること。
3. 運用時間を夜間のみなどに限定すること。
4. 定期的に開催する身体拘束ゼロ委員会において、その使用について議論すること。」

当該利用者は、その後極端な不眠はないが、夜間に1～2時間ごとの起き上がり、時に居室内を歩く、などは見られているため、安全の確保と夜勤職員の負担軽減のため、市の見解に沿って慎重に運用を継続してゆきたいと考えている。

委員質問：このことは前回議論した。市の見解で使用が可能になったのか。

回答：そのとおりです。ただ、継続して必要性の見直しは行なってゆきたい。

委員：それは良かったのではないか。

委員質問：いずれは使用を解除する時というゴールはどのような状態か。

回答：体調や精神面に落ち着きがあり、夜間のセンサーの感知が夜間に3～4回くらいとなれば解除を想定している。

委員：見守りカメラではシルエットを映すものもあるようだが。

暖らん；使用している製品は、夜間の暗視機能ではほぼシルエットの映像である。

委員：夜間の見守りセンサーでは、バイタルや圧力などで離床を検知する製品もあるようだ。

暖らん：そうした製品も検討したい。

## 6. その他

□ 1月からフルタイムの職員として理学療法士が勤務している。介護業務を行うとともにご利用者の機能訓練を継続的に実施し、身体機能の回復／低下防止等の取り組みを行なう。

□ 1月23日に介護相談員2名の訪問調査を受けた。午後のお茶の時間にご利用者一人ひとりとお話をされ、管理者から聞き取りも行われた。その報告は後日作成され、出雲市、暖らんに送付されることになっている。